慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	追悼 生田正輝先生 : 生田正輝先生と新聞研究所 : そしてメディア・ コミュニケーション研究所
Sub Title	
Author	山本, 信人(Yamamoto, Nobuto)
Publisher	慶應義塾大学メディア・ コミュニケーション研究所
Publication year	2014
Jtitle	メディア・ コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・ コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.64 (2014. 3) ,p.165- 165
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20140300-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

追悼　生田正輝先生

生田正輝先生と新聞研究所
—そしてメディア・コミュニケーション研究所—

山本信人

生田正輝先生は2012年5月7日，89歳の生涯を終えられた。生田先生の生涯はまさに慶應義塾大学での歩みであった。同時にメディア・コミュニケーション研究所の前身である新聞研究所の設立と発展は，生田先生なしには語ることができない。

生田先生は1923年2月6日，兵庫県丹波市柏原町でお生まれになった。慶應義塾大学法学部政治学科に入学後，学徒動員で戦地に赴かれたこともあり，卒業は1947年9月であった。学部時代は米山桂三先生の下で，社会学，世論，マス・コミュニケーション論などを学ばれた。卒業後すぐ翌10月から法学部助手として研究の道に進まれることになった。1951年に助教授，1957年に教授に昇進され，1960年から61年にかけてはハーバード大学で訪問研究員として研鑽を積まれた。

1946年に米山先生が主導なさり新聞研究室が開設されると，生田先生は自ずと新聞研究室の運営に深く関わることになった。1949年4月には生田先生は新聞研究室主事を兼務された。新聞研究室は1961年に新聞研究所と改組になった。1962年から69年は新聞研究所副所長を兼務された。1973年から77年の4年間，生田先生は新聞研究所の所長として研究所の発展に尽力された。その前後の時期といえば，生田先生が慶應義塾常任理事，法学部長などの役職で大学行政に深く関与され，慶應義塾を支えていらっしゃった。そして1987年，生田先生は慶應義塾を退職なさった。丁度わたしが学部を卒業する時期に重複していた。

生田先生の活躍の場は義塾内に留まることはなかった。日本のマス・コミュニケーション研究の草創者の一人でもある。日本新聞学会（現日本マス・コミュニケーション学会）や情報通信学会の立ち上げでも中心的な役割を果たされた。1979年から83年までは日本新聞学会会長，1996年から2000年までは情報通信学会会長を務められた。政策の世界でも幅広く生田先生はご活躍であった。1975年から77年は総理府広報研究会座長，1978年から80年にかけて国際コミュニケーション政策会議組織委員長，1983年には世界コミュニケーション年国内委員，1991年から95年にかけては郵政省（現総務省）電波監理審議会会長の要職をこなされた。こうした業績は高く評価され，1991年には電波の日郵政大臣賞，1996年には財団法人逓信協会前島賞を受賞され，そして2000年には勲二等瑞宝章を受章された。

わたしにとって，生田先生といえば新聞研究所，新聞研究所といえば生田先生であった。わたしは直接ご指導を受けたことはなかったものの，同期の友人や現在の同僚，そして綱町三田会の先輩方からは生田先生にまつわる幾つもの逸話を耳にしてきた。そうした逸話のなかの生田先生は近寄りがたい偉人であった。ご縁があって，その偉人の築き上げてきた研究所を現在わたしは任されている。偉人の遺志をつなぐことで，ますます研究所を発展させていきたいとの思いを強くしている。

生田先生，どうぞ上からわたくしたちの歩みを見守ってください。

（2013年12月5日）

山本信人（メディア・コミュニケーション研究所長，法学部教授）